

現代日本論基礎講読「研究法入門」

第6講 議論を組み立てる

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 厳密な思考と建設的な批判

1 課題

作成してきた問いと答えの表について、意見を交換する。

- 批判的に
- 細かいところの論理的整合性
- 全体的な一貫性
- 自分のもっている知識との矛盾

2 注意すべきポイント

概念と用語

- 定義と意味
- 実際の用法
- 当てはまるものと当てはまらないもの
- 他の概念との関連

論理

- 前提
- 必要条件と十分条件
- 逆や裏を考えてみる

データ

- 対象
- 測定と分析の方法
- 測定の妥当性・信頼性再現性
- 結果をどのように解釈するか
- どのように一般化できるか

- 直観と内省

推論

- 確率と統計的推測
- 場合わけは網羅的か
- 複数の推論の組み合わせ

価値判断

- さまざまな価値基準
- 一貫性

3 発表会

1/13,20 の授業では、各自の研究成果について発表をおこなう

- 発表内容についての資料を人数分 (13 人?) 用意する (初回資料 にしたがって簡潔にまとめる)
- グループ内で「紹介者」を決めておく
- 紹介者から研究内容を紹介 (2 分)、そのあと自由に質疑 (8 分)
- 紹介者との間で事前に打ち合わせしておくこと。グループで集まるのが望ましいが、できない場合はメール連絡等でもよい
- グループ分けと発表日は今日決定

4 口頭試問

授業最終週に、グループで口頭試問をおこなう。1 人 15 分程度。時間と場所はグループごとに決める。発表会の時の資料から改訂した部分がある場合は、改訂後の資料を持ってくること。試問ではいろいろなことを聞かれる可能性があるので、参照する可能性のある資料を準備しておくこと。

口頭試問の際に提出された資料が、レポート確定版として成績評価の対象になる。